

## 第3回 IT会社が考える介護の近未来

本コラムはアカリエヘルスケアカンパニー(横浜市)の高橋健一社長による「ICT×医療×介護」をテーマとした特別対談コーナーとなる。第3回目は、介護・医療・福祉業界特化型のIT支援サービス「ほむさぽ」を展開するビーブリッド(東京都台東区)の竹下康平代表との対談。介護現場でのIT化の課題やこれからの中・福祉業界におけるICT活用について語ってもらひた。



アカリエ高橋健一社長

## 特別対談コーナー

### ICT×医療×介護

東京外国語大学卒業。米留学を経験した後、ユニリーバ等で経験を積む。2005年父親が終末期医療を受けたことをきっかけに、高齢期における社会課題の解決に目を向ける。ヘルパー等の資格をとり、ベネッセスタイルケアの企画経験を経て、2014年アカリエヘルスケアカンパニー株式会社を立ち上げ代表取締役に就任。現在に至る。

を2010年に立ち上げました。

#### ■IT化の一番の課題「教育」

高橋 IT化といつても介護業界では様々なやり方があると考えています。例えば、記録システムをクラウド化してパソコン上で共有や編集できる体制を整えること、介護現場の負担を直接減らすように見守りサービスを導入すること、ビジネスチャットツールを導入して職員間のコミュニケーションの効率化を図ることなど、様々なアプリやツールの導入が考えられます。

高橋 特に教育では、マネジメント層へのIT教育が重要だと感じますね。私自身エンジニアではないため、元々アプリやツールについて多くの知識がありませんでした。当社のエンジニアが「こんな無料のチャットツールありますよ」とお年寄りが自宅や施設に閉じこもっている全体数は減るのではないかどうか。そうなると介護職員やケアマネは、施設や在宅だけではなく街中どこでも必要とされるようになるでしょう。

高橋 介護予防の観点からもテクノロジーは効果を発揮できそうですね。

竹下 そうですね。例えば居室内のセンサーとAIの進化により「先週より、歩行速度が秒速0・1m落ちてますが、お気づきですか」と教えてくれて、必要な活動やサービスをリコメンドしてくれるようになるかもしれません。

日々多くの課題と直面している状況だと思います。

#### 結果的に、IT教育や施設のIT化は後回しになってしまいます。ある程度規模の大きな法人でないIT化を進める上で必要な知識を身に付けたり、それを進めることが難しくなっています。

#### 竹下 業務系のICTの進化も目覚ましいですが、注目分野の一つが移動支援機器、パーソナルモビリティです。この進歩は業界に大きな影響をもたらすのではないかでしょうか。イスでは段差を登つていけるような車椅子の開発が既に進んでいて、今後は自動運転などの各種モビリティの発展が期待できます。実際にある程度整備が進み普及が進んだ近未来を想定すると、お年寄りが自宅や施設に閉じこもっている全体数は減るのではないかどうか。そうなると介護職員やケアマネは、施設や在宅だけではなく街中どこでも必要とされるようになるでしょう。

高橋 買い物難民が発生している現状の解決策にもなりそうですね。

#### 竹下 そうした結果、これ

## 技術革新がDXを後押し

高橋 特に教育では、マネジメント層へのIT教育が重要だと感じますね。私自身エンジニアではないため、元々アプリやツールについて多くの知識がありました。当社のエンジニアが「こんな無料のチャットツールありますよ」とお年寄りが自宅や施設に閉じこもっている全体数は減るのではないかどうか。そうなると介護職員やケアマネは、施設や在宅だけではなく街中どこでも必要とされるようになるでしょう。

高橋 介護予防の観点からもテクノロジーは効果を発揮できそうですね。

竹下 そうですね。例えば居室内のセンサーとAIの進化により「先週より、歩行速度が秒速0・1m落ちてますが、お気づきですか」と教えてくれて、必要な活動やサービスをリコメンドしてくれるようになる

竹下 一番の課題は、IT教育や研修に十分な時間が取れない点だと考えます。

竹下 一番の課題は、IT導入がまだまだ不十分で、使う側も困っている印象を受けました。そこで、介護現場でのIT活用方法について支援する会社者一人ひとりの状態など、

竹下 今後10年で、介護業界の未来

竹下 今後10年で、介護業界の未来

竹下 今後10年で、介護業界の未来

竹下 今後10年で、介護業界の未来